



黄斑前膜

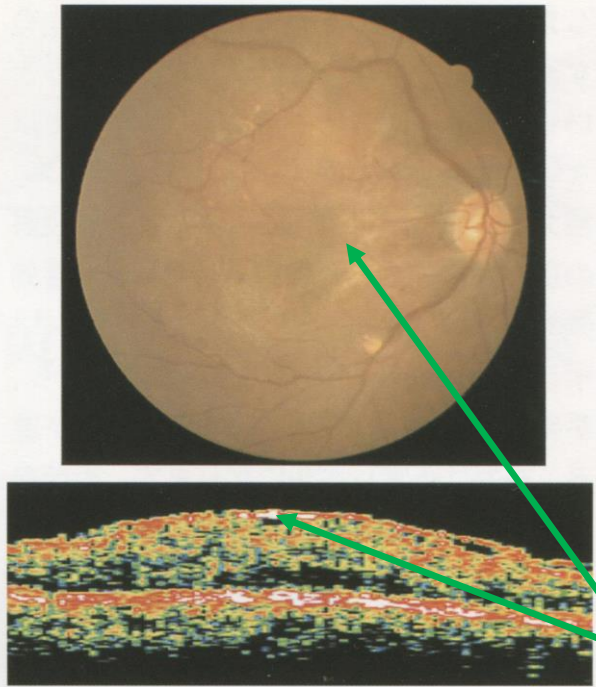
おつはなせんまへん

院長 山口伸幸



あまりなじみのない病名かもしれませんが黄斑前膜・網膜上膜・黄斑繊維症などとも呼ばれるこの病気はかなりの頻度であり、患者さんもたくさんいます。この病気は後部硝子体剥離が起こる50歳から70歳の年配の方、特に女性に多く発症します。早期の症状は比較的軽く、ぼやけ・かすみ・歪み・物が小さく、あるいは大きく見えるなどありますが、視力はほぼ良好で検診などの眼底検査で判明することが多いようです。目には硝子体という眼球のあんこの部分にゼリー状の塊とその膜がありますが、加齢とともに硝子体は収縮し(ちょうど水風船がしぼむような感じ)硝子体膜も網膜からはがれていきます。はがれた膜が網膜の黄斑部に癒着したまま残ってしまうのがこの黄斑前膜になるのです。(左図)網膜にくっついた膜は細胞成分などが増殖し網膜をひっぱったり歪めたりするのでぼやけや、ゆがみの原因となります。生活習慣や目の疲れとは一切関係なく、したがって何を食べたからとか目を使すぎたからといったことではなく突発的に発症します。検査は眼底写真やOCT(網膜断層写真)ですぐにわかりますが、この病気は点眼薬や内服薬では治りません。手術でこの膜を除去する以外根本的治療法はないのです。ただ進行は遅く症状が軽く進行しないこともあり、まれに自然治癒する場合もあるのですが軽いうちはほとんどの場合経過観察します。黄斑前膜を除去する手術は硝子体手術といって、目の最奥の網膜を操作する手術なので眼科の手術としては比較的大きい手術になるため、大病院で入院して行うのが一般的です。患者さんは年配の方が多いのと硝子体手術をする白内障も併発するため一般的には白内障も同時に手術してしまいます。この病気では患者さんは「なんか見づらい」と訴えますが視力を測ると悪くなく、大丈夫だろうと思ってしまいます。しかしOCTなど精密検査をすると黄斑前膜だとわかる事が多いのです。

黄斑前膜



☆<http://www.yamaguchi-eyeclinic.com>

お知らせ

夏期休診日のお知らせ

※8月11日(金)~17日(木)まで夏期休診致します。なお8月8日火曜日は手術がありませんので午後も院長の診察があります。ご迷惑をおかけいたしますがご理解のほど、よろしくお願い致します。

診療医担当表

	月	火	水	木	金	土
AM	院長 岩崎	院長 岩崎	院長 岩崎	院長 岩崎	院長 岩崎	院長
PM	院長 岩崎	岩崎 院長手術	院長 岩崎手術	院長 岩崎	院長 岩崎	院長

ご注意ください

※検査が必要な方は終了時間の30分前には来院下さい。(午前中は12:30まで、午後は6時半まで)特に視野検査がある方、メガネやコンタクトレンズ作成の場合は終了時間の1時間前(午前中は12:00、午後は6:00まで)には受付をして下さいますようお願い致します。

編集後記

気づけばスマイル新聞第70号!17年間、年4回(1/1・4/1・7/1・10/1)発行してまいりました。こつこつとよく続いたな~と思う今日この頃です。さて最近大人気のコンタクトでメルスプランのプレミオ1DAYというのがあります。シリコンハイドロゲル素材の1日使い捨てで酸素をよく透して乾きづらい、1カ月税込5400円という安さはほんとにすごい!

第29回!

素朴な疑問Q&A

Q なぜ眼圧が高くないのに緑内障になるの?

A 正常眼圧緑内障ってご存知ですか?通常は眼圧が高くなる事により緑内障になるのですが、眼圧が正常でも視神経乳頭が陥凹する事があります。それは視神経乳頭の構造が相対的に弱い(眼圧に対する感受性が強すぎる)場合です。視神経乳頭の強さは人それぞれ異なると考えられ、構造的に弱い場合は正常レベルの眼圧でも視神経が障害されてしまうのです。つまり緑内障は眼圧と視神経乳頭のバランスが崩れることで起きる病気なのです。

